



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ〜るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
						1 ×
2 ×	3	4	5	6	7	8 ×
9 ×	10	11	12	13	14	15 企画展 ギャラリートーク 15:00-
16 ×	17 × 海の日	18	19	20	21	22
23 オープンキャンパス 施設見学 10:00-16:00	24	25	26	27	28	29 天文学講座 15:00-16:00 (14時開館)
× 30	31					

施設見学 9:00~16:00
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30~17:30

天体観望会 19:00~21:00
(定員あり/要予約)

× 休館日

月の形 (満月・新月・半月および観望会で月が見えるとき)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階常設展示フロアでは企画展「隕石 × 小惑星」(5/12~8/6)、また、3階では荒木望遠鏡(国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡)の見学が可能です。

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。また、宇宙の3D映像上映会を開催します。(7月1日、8日は休止)

よくある質問?

観望会でよく聞かれる質問にお答えします★

? 荒木望遠鏡で天の川は見えるの?

望遠鏡は狭い範囲を拡大するため、たとえば天の川の中にある星を見ることはできますが、天の川の形を望遠鏡で確認することはできません。天の川の形を見るには、京都市内の街明りに邪魔されないように、もう少し市街地から離れた場所へ行く必要があります。山や海などへ旅行に行かれた際には、ぜひ、天の川を探してみてください。

? 七夕の夜、織姫星と彦星は本当に近づくの?

残念ながら、織姫星(こと座のベガ)と彦星(わし座のアルタイル)が七夕の夜に近づくことはありません。実際には織姫星と彦星との間は、この世で一番速い光でさえ14年半もかかるほど離れています。天の川をはさんで輝いている2つの星の配置から、中国で七夕伝説が生まれ、日本へ伝わってきました。

企画展 隕石 × 小惑星

太陽系の起源を探る

8月6日(日)まで開催中!



私たちの太陽系はいつ、どのようにして誕生したのでしょうか。太陽系が誕生した当時の記憶は、小惑星や彗星といった太陽系小天体に残っているほか、地球にいながら手に取ることができる「隕石」にも残されています。本企画展では、実験室での隕石の分析と小惑星の地上観測、宇宙探査を結びつけ、隕石から得られる太陽系の起源について紹介します。詳細は企画展のWEBページ(右上QRコードから)をご覧ください。

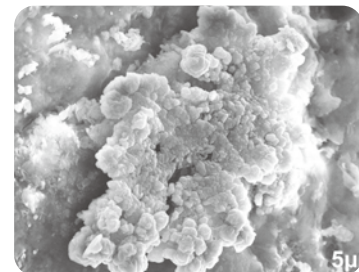
企画展関連イベント

隕石と小惑星リターンサンプルの分析から読み解く

太陽系小天体の起源と進化

7月29日(土)15:00-16:00 開催決定!

松本 恵氏(東北大学 理学研究科地学専攻 助教)を講師に、普段の隕石分析や小惑星探査機はやぶさ2が持ち帰った小惑星リュウグウサンプル分析から得られた太陽系の起源と進化に関する最新の研究成果をご紹介します。(WEBページから要予約)



小惑星リュウグウサンプル表面の結晶
(電子顕微鏡画像 © 東北大学)

夏の三大角

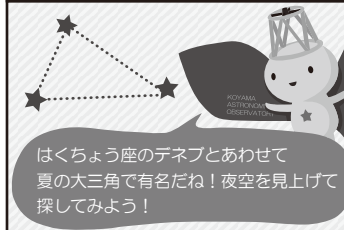
今年も七夕の季節がやってきたね!!



1年に1度だけ、織姫と彦星は天の川を渡って会えるという言い伝えがあるけど

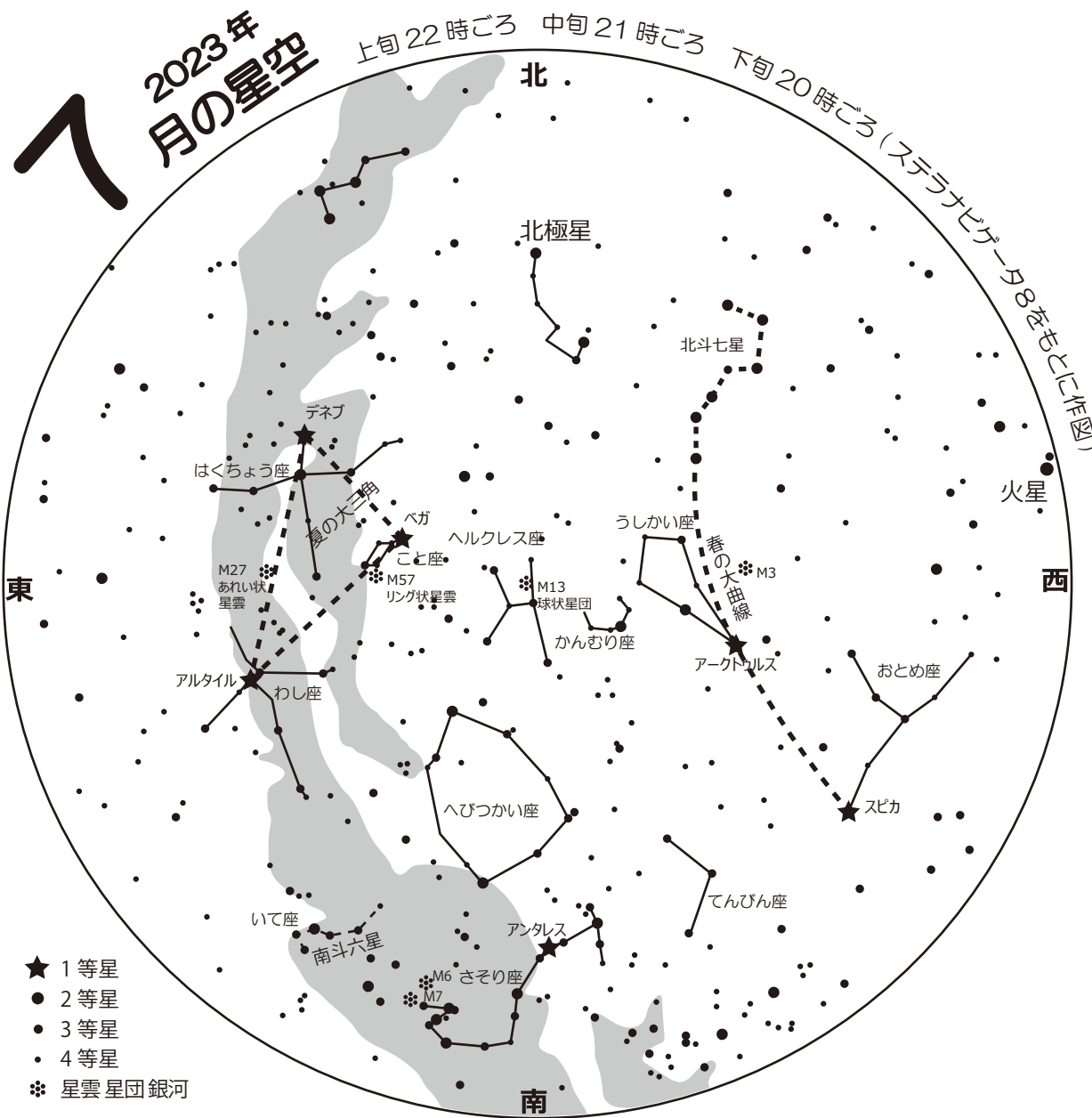


織姫星はこと座のベガ、彦星はわし座のアルタイルのことなんだよ!



はくちょう座のデネブとあわせて夏の三大角で有名なね! 夜空を見上げて探してみよう!

2023年7月 見ごろの天体



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- ※ 星雲 星団 銀河

7月7日 七夕

織姫、彦星の物語が有名な七夕は、中国の裁縫の上達を願う「乞巧奠（きこうでん）」と、日本の「着物を棚に供え、秋の豊作を祈り、穢れを払う行事」とが合わさった行事といわれています。裁縫だけでなく、書道や芸事など、いろいろな願い事をしますね。現在の暦では7月7日は梅雨が明けないことが多く、織姫、彦星も遅い時間にならないと昇ってきません。月をもとにした暦、旧暦のほうが季節感が合います。今年の旧暦の伝統的七夕は8月22日です。

★夏の三角形（なつのだいさんかく）：The summer triangle

はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガの3つの明るい星を結んで描かれる大きな三角形は夏の三角形と呼ばれています。ベガとアルタイルは、七夕の伝説における「織姫」と「彦星」です。

★二重星（にじゅうせい）：Double star

重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つの星に見えます。夏に見られる代表的な重星には、はくちょう座のアルビレオ（金色と青色の2つの星が寄り添って見える）、さそり座のβ星（爽やかな青いペア）があります。こと座には、二重星がさらに2つずつの二重星となっている、ダブル・ダブル・スターと呼ばれる星もあります。

★球状星団（きゅうじょうせいだん）：Globular cluster

球状星団は、数十万の恒星の集まりです。私達の銀河系の中には、約150個の球状星団があり、球状星団の中の星たちは非常に高齢で、100億歳以上の星もたくさんあります。夏には、ヘルクレス座のM13、りょうけん座のM3、へび座のM5などの球状星団が見られます。

★赤色巨星（せきしよくきょせい）：Red giant

恒星は、一生の大部分は安定して輝く時期（「主系列星」といいます）が続きます。しかし、恒星の内部の水素を使い果たすと、恒星は自身の重力で縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。膨張すると表面の温度が低くなるため赤色に見えます。夏には、うしかい座のアークトゥルス（直径は太陽の約20倍）やさそり座のアンタレス（直径は太陽の約600-800倍）が見られます。

★惑星状星雲（わくせいじょうせいうん）：Planetary nebula

太陽程度の重さの恒星は、一生の最後に水素ガスを使い果たして赤色巨星となった後、外側のガスを周囲に放出します。この放出されたガスが輝いて見えるのが惑星状星雲です。望遠鏡で見たときに、まるで惑星のように丸くほんのり色づいていることから、このような名前がついています。こと座にはリング星雲と呼ばれる惑星状星雲M57があり、望遠鏡で見るとドーナツのような形を見ることができます。